

シグマ研究委員会 熱中性子文献グループ会合議事録

日 時 昭和 56 年 11 月 6 日 (金) 13:30 ~ 17:00
場 所 原研本部 第 4 会議室
出席者 井上, 角谷, 関谷, 栗山, 依田, 後藤, 坂本

議 事

1. 新しいシステムによるデータ収集状況報告

1979 年 9 月以降, 原子分子グループで開発した文献整理システムに合せて収集作業を行っているが, 現在までの収集状況について下記のように報告があった。

◦ 新システムでテスト処理済み	310 件
◦ データ・シートのカード化処理済み	374 "
◦ " ファイル入力済み	258 "
◦ 回収データ・シート未処理分	110 "
◦ 未 回 収	180 "
◦ 合 計	1,232 件

今後の収集作業について次のような指摘があった。

- (1) データ・シート記入者には収集すべき文献のコピー(最初から 2 ページ位)を配布し, キーワードの選定を主とする。
- (2) 収集文献の計算機への入力は, 1 次資料(上記コピー)の内容と選定されたキーワードを端末タイプライターで直接入力とすべきである。

2. 計算機処理上の問題と今後の処置について

新プログラムによる処理テストの最終出力リストの上での問題点について次のように報告された。

- 特殊文字指定記号が生かされていない。大文字小文字表現が行われて

いない。

- 特殊文字指定記号の処理が不統一である。例えば、大文字指定記号はそのまま残してあるが、上つき、下つき記号は消されている。しかも著者名の大文字指定はない。
- その他
不必要な文字が入る(コンテンツ)、年号のあつかいに誤りがある(番号づけ)、行にとびがある(文献集)
これらの問題を含み、今後の活動について

次のような意見があった。

- (1) 世界にもこの分野での文献集は外にはないので今後も続けるべきである。
- (2) プログラム完成に必要な経費の見積りを行い、予算化すべきである。
- (3) 国際結晶学会からも継続を期待されている。
- (4) 文献数が増加しているので、継続すべきである。

3. 決定事項

- (1) 文献コピーによる調査方式を検討すること。
- (2) プログラム完成に必要な経費の見積りを行うこと。
- (3) 1次資料(コピー)による端末からの入力方式を活用すること。
- (4) 整理作業には委員の協力を求めること。

4. その他

井上氏により、パルス中性子源、冷中性子源について各国のを視察した報告がスライドにより行われた。